

令和3年度 第1回徳島県動物由来感染症対策検討会

書面開催 資料

目次

1 食肉衛生検査所

- ・ジビエにおける病原体保有状況調査 1
- ・人獣共通感染症調査の委託業務実施結果報告（野生鳥獣肉） 1 2
- ・県内における野生動物のレプトスピラ保有状況調査について 1 3

2 動物愛護管理センター

- ・イヌネコにおけるリケッチア感染症の抗体調査について 3 0

3 徳島保健所

- ・SFTSに関する相談への対応事例 4 5

4 畜産振興課

- ・本県における高病原性鳥インフルエンザの発生と防疫対応について 4 7

ジビエにおける病原体保有状況調査

R4.2.28

徳島県食肉衛生検査所

1 調査期間 平成23年4月～令和3年12月

2 検体数及び捕獲場所

表)年度別の検体数

年度	シカ	イノシシ	ウサギ	計
H23	5			5
H24	54			54
H25	6	13		19
H26	78	133		211
H27	20	52		72
H28	24	30		54
H29	30	27		57
H30	27	44	5	76
R1	43	12		55
R2	18	20		38
R3	23	19		42
計	328	350	5	683

R2年度 地域別の検体数

	シカ	イノシシ	計
西部(三好市、美馬市)	7(23)	4(0)	11(23)
中部北(阿波市、鳴門市)	3(3)	14(2)	17(5)
中部南(吉野川市、名西郡、名東郡)	0(1)	1(0)	1(1)
徳島(徳島市、小松島市)	0(2)	0(1)	0(3)
南部(阿南市、勝浦郡、那賀郡、海部郡)	8(14)	1(8)	9(22)
香川県		(1)	(1)

合計 38 頭

R3年度 地域別の検体数

	シカ	イノシシ	計
西部(三好市、美馬市)	5	2	7
中部北(阿波市、鳴門市)	6	8	14
中部南(吉野川市、名西郡、名東郡)	7	4	11
徳島(徳島市、小松島市)	0	0	0
南部(阿南市、勝浦郡、那賀郡、海部郡)	5	5	10

合計 42 頭

《 R2年度 施設からの買い上げ分 冷蔵食肉 》

祖谷の地美栄	シカ6	イノシシ4
ししぎの森のお肉屋さん	シカ3	
美馬市シカ肉等処理加工施設	シカ1	

合計 14 検体

《 R3年度 施設からの買い上げ分 冷蔵食肉 》

祖谷の地美栄	シカ3	イノシシ2
ししぎの森のお肉屋さん	シカ2	イノシシ4
美馬市シカ肉等処理加工施設	シカ1	
阿波ジビエ池田	シカ1	

合計 13 検体

3 結果

E型肝炎ウイルス(HEV)

1 方法 シカ、イノシシ血清及び肝臓からRT-PCR法によりHEV遺伝子の検出。

2 結果

	シカ	陽性	イノシシ	陽性
H23	5	0		
H24	54	0		
H25	6	0	13	0
H26	62	0	124	1
H27	20	0	52	1
H28	21	1	26	0
H29	29	0	26	1
H30	25	0	39	5
R1	43	1	12	0
R2	17	0	20	0
R3	22	0	19	0

レプトスピラ

1 方法

平成28年度は血清、H29～R3年度は腎臓からDNAを抽出し、PCR法にて検査を行った。

2 結果

	シカ	陽性数	(陽性率)	イノシシ	陽性数	(陽性率)
H28(血清)	21	1	(4%)	26	0	(0%)
H29(腎)	26	1	(4%)	27	5	(19%)
H30(腎)	22	0	(0%)	41	2	(5%)
R1(腎)	40	0	(0%)	9	3	(33%)
R2(腎)	18	0	(0%)	19	1	(5%)
R3(腎)	22	0	(0%)	18	3	(17%)

野兔病 抗体検査

1 方法

シカ、イノシシ血清における抗体価を微量凝集反応法により調査。抗体価80倍以上を陽性とした。

2 結果

		検体数	× 40	× 80	× 160	× 320
シカ	H26	30	16	11	1	1
	H27	18	5	5		
	H28	21	4	6		
	H29	26	4	6		
	H30	21	2	2		
	R1	17	0	0	0	0
	R2	7	0	0	0	0
イノシシ	H26	90	43	13	1	
	H27	49	16	7		
	H28	28	5	4		
	H29	22	11			
	H30	31	8	2		
	R1	5	0	0	0	0
	R2	15	0	0	0	0

食中毒細菌

1 方法

直腸便から、細菌培養及び遺伝子検査により、O157などの病原性大腸菌、カンピロバクター、サルモネラ、エルシニア属菌の検査を行った。

アルコバクター、カンピロバクター、腸管出血性大腸菌の検査結果については、日本大学壁谷教授からの検査結果も含む。

2 結果

シカ	病原性大腸菌	カンピロバクター	サルモネラ,赤痢菌	エルシニア	アルコバクター
H26	3(O103)/66	11/73	0/73	5/73	-
H27	0/15	0/15	-	1/15	-
H28	0/23	2/23	-	0/23	-
H29	0/27	1/27	0/27	0/27	-
H30	2/26	2/26	0/26	2/26	3/26
R1	1/15	-	0/15	-	-
R2	0/8	-	0/8	-	-
R3	2(O103,VT(+))/17	2/17	0/17	-	-

イソシ	病原性大腸菌	カンピロバクター	サルモネラ,赤痢菌	エルシニア	アルコバクター
H26	13/108	90/123	2/124	3/124	-
H27	1(O143)/31	17/31	-	5/31	-
H28	0/23	6/25	-	0/25	-
H29	0/25	5/26	0/26	2/26	-
H30	1/44	18/44	0/44	2/44	11/42
R1	0/4	-	0/4	-	-
R2	0/14	-	0/14	-	-
R3	0/11	3/11	0/11	-	-

ウサギ	病原性大腸菌	カンピロバクター	サルモネラ,赤痢菌	エルシニア	アルコバクター
H30	0/5	0/5	0/5	0/5	0/5

食肉製品についての食中毒菌検査(シカ、イソシ)

・・試料を10倍希釈した溶液を用いて、培養検査を行った。

	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター属菌	サルモネラ属菌
H30	2/10	0/10	0/10
R1	2/28	1/28	0/28
R2	0/14	0/14	0/14
R3	4/13	0/13	0/13

寄生虫検査

1 槍形吸虫・・・シカの肝臓を細切することにより検査を行った。

	シカ	陽性数	(陽性率)
H26	43	9	(21%)
H28	11	2	(18%)
H29	28	4	(14%)
H30	20	0	(0%)
R1	43	8	(19%)
R2	18	3	(17%)
R3	22	9	(41%)

2 旋毛虫(トリヒナ)・・・筋肉からPCR法にて検査を行った。

	シカ	陽性数	(陽性率)	イノシシ	陽性数	(陽性率)
H29	28	1	(4%)	27	1	(4%)
H30	35	2	(6%)	42	6	(14%)
R1	39	0	(0%)	11	0	(0%)
R2	18	0	(0%)	20	0	(0%)
R3	22	0	(0%)	15	0	(0%)

3 豚腎虫・・・イノシシの腎盂、腎周囲脂肪を細切することにより検査を行った。

	イノシシ	陽性数	(陽性率)
H30	40	9	(23%)
R1	12	2	(17%)
R2	20	2	(10%)
R3	18	4	(22%)

残留有害物質検査

1 放射性物質検査

① 方法・・・ゲルマニウム半導体検出器により、筋肉中の放射性セシウム(Cs-134,137)の検査を行った。

② 結果

	検体数 シカ	Cs-134	Cs-137	検体数 イノシシ	Cs-134	Cs-137
H26	51	検出せず		120	検出せず	
H27	7	検出せず		8	検出せず	
H28	14	検出せず		9	検出せず	1(基準値未満)※
H29	17	検出せず		17	検出せず	
H30	18	検出せず		29	検出せず	
R1	26	検出せず		6	検出せず	
R2	17	検出せず		17	検出せず	
R3	17	検出せず		14	検出せず	

※食品の基準値100^ベクレル/kgに対し3^ベクレル/kgと微量な値であり、人の健康への影響はありません。

2 残留有害物質検査

① 方法・・・H26～30年度:ガスクロマトグラフィーにより、筋肉中の残留農薬検査等を行った。
R1～R3年度:高速液体クロマトグラフィー質量分析計により筋肉中の残留農薬検査等を行った。

② 結果

	シカ	農薬	イノシシ	農薬
H26	シカ・イノシシ 26		検出せず	
H27	8	検出せず	10	検出せず
H28	9	検出せず	4	検出せず
H29	10	検出せず	7	検出せず
H30	12	検出せず	11	検出せず
R1	21	検出せず	5	検出せず
R2	10	検出せず	4	検出せず
R3	8	検出せず	6	検出せず

リケッチア症及びSFTS抗体検査

1 方法 シカ、イノシシ血清における抗体を、日本紅斑熱 (*Rickettsia japonica*), 発疹熱 (*R. typhi*), ツツガムシ病 (*Orientia tsutsugamushi*) の血清型6種 (Gilliam, Karp, Kato, Irie, Hirano, Shimokoshi) 及び重症熱性血小板減少症候群 (SFTSV) について、間接免疫ペルオキシターゼ反応 (IP法) により調査。

※シカ・イノシシの検体数のうち、それぞれの陽性数 (抗体価40倍以上を陽性) を計上。

※ツツガムシ病については、いずれかの抗体が陽性となったものを換算して計上。

2 結果

シカ	検体数	日本紅斑熱 (%)	ツツガムシ病 (%)	SFTS (%)
H23	5	1 (20%)	0 (0%)	0 (0%)
H24	54	3 (6%)	8 (15%)	0 (0%)
H25	6	1 (17%)	3 (50%)	0 (0%)
H26	59	30 (51%)	30 (51%)	8 (14%)
H27	19	6 (32%)	4 (21%)	1 (5%)
H28	21	8 (38%)	9 (43%)	1 (5%)
H29	25	3 (12%)	3 (12%)	9 (36%)
H30	21	5 (24%)	2 (10%)	5 (24%)
R1	17	1 (5%)	3 (17%)	0 (0%)
R2	7	1 (14%)	0 (0%)	0 (0%)

【シカ】日本紅斑熱及びツツガムシ病は年度により陽性率に差がある。
SFTSはH26年から陽性個体が見られたが今年度は陽性なし。

イノシシ	検体数	日本紅斑熱 (%)	ツツガムシ病 (%)	SFTS (%)
H23	—			
H24	—			
H25	13	9 (69%)	5 (38%)	5 (38%)
H26	119	80 (67%)	60 (50%)	29 (24%)
H27	50	5 (10%)	13 (26%)	16 (32%)
H28	28	14 (50%)	11 (39%)	4 (14%)
H29	23	3 (13%)	2 (9%)	6 (26%)
H30	31	3 (10%)	1 (3%)	2 (6%)
R1	5	1 (20%)	3 (60%)	0 (0%)
R2	15	3 (20%)	0 (0%)	0 (0%)

採取されたマダニ

～R2年度～

○イノシシから採取

- ・オオトゲチマダニ
- ・タカサゴキララマダニ
- ・ヒゲナガチマダニ

○シカから採取

- ・キチマダニ
- ・ヒゲナガチマダニ
- ・ツニチマダニ

～R3年度～

○イノシシから採取 (約100匹)

- ・タカサゴキララマダニ
- ・ヒゲナガチマダニ
- ・フタトゲチマダニ
- ・ヤマアラシチマダニ
- ・キチマダニ
- ・タイワンカクマダニ

○シカから採取 (約20匹)

- ・キチマダニ
- ・ヒゲナガチマダニ
- ・ツノチマダニ
- ・タカサゴキララマダニ
- ・アカコッコマダニ
- ・フタトゲチマダニ
- ・オオトゲチマダニ
- ・ヤマトチマダニ

R2年度まとめ

		シカ 陽性率		イノシシ 陽性率	
ウイルス	E型肝炎	0/17	0%	0/20	0%
食中毒 細菌	病原性大腸菌 (直腸便)	0/8	0%	0/14	0%
	カンピロバクター (直腸便)	0/8	0%	0/14	0%
	サルモネラ、赤痢 (直腸便)	0/8	0%	0/14	0%
	黄色ブドウ球菌 (食肉製品)	0/10	0%	0/4	0%
	カンピロバクター (食肉製品)	0/10	0%	0/4	0%
	サルモネラ (食肉製品)	0/10	0%	0/4	0%
細菌	レプトスピラ	0/18	0%	1/19	5.3%
	野兔病	0/7	0%	0/15	0%
寄生虫	トリヒナ	0/18	0%	0/20	0%
	槍型吸虫	3/18	5.6%	—	—
	豚腎虫	—	—	2/20	10%
放射性物質		0/17	0%	0/17	0%
残留有害物質		0/10	0%	0/4	0%
ダニ媒介 性疾病	日本紅斑熱群リ ケッチア	1/7	14.3%	3/15	20%
	ツツガムシ病	0/7	0%	0/15	0%
	SFTS	0/7	0%	0/15	0%

…人獣共通感染症調査の委託検査項目

R3年度(12月末)まとめ

		シカ 陽性率		イノシシ 陽性率	
ウイルス	E型肝炎	0/22	0%	0/19	0%
食中毒 細菌	病原性大腸菌 (直腸便)	2/17	11.8%	0/11	0%
	カンピロバクター (直腸便)	2/17	11.8%	0/11	0%
	サルモネラ、赤痢 (直腸便)	0/17	0%	0/11	0%
	黄色ブドウ球菌 (食肉製品)	4/7	57.1%	0/6	0%
	カンピロバクター (食肉製品)	0/7	0%	0/6	0%
	サルモネラ (食肉製品)	0/7	0%	0/6	0%
細菌	レプトスピラ	0/22	0%	3/18	16.7%
寄生虫	トリヒナ	0/22	0%	0/15	0%
	槍型吸虫	9/22	40.9%	—	—
	豚腎虫	—	—	4/18	22.2%
放射性物質		0/17	0%	0/14	0%
残留有害物質		0/8	0%	0/6	0%

徳島県における野生動物の レプトスピラ保有状況調査について

令和3年度徳島県動物由来感染症対策検討会

はじめに

Leptospira

- Pathogenic *Leptospira* 10種
- Intermediate-pathogenic *Leptospira* 5種
- Non-pathogenic *Leptospira* 7種



※病原性レプトスピラ
(*Leptospira interrogans*) の
電子顕微鏡像
(国立感染症研究所 HP)

人や動物に対して
病原性あり

250以上の血清型、
26血清群に分類される。

家畜伝染病予防法



Leptospira interrogans serovar Pomona

Canicola

Icterohaemorrhagiae

Grippityphosa

Hardjo

Autumnalis

Australis

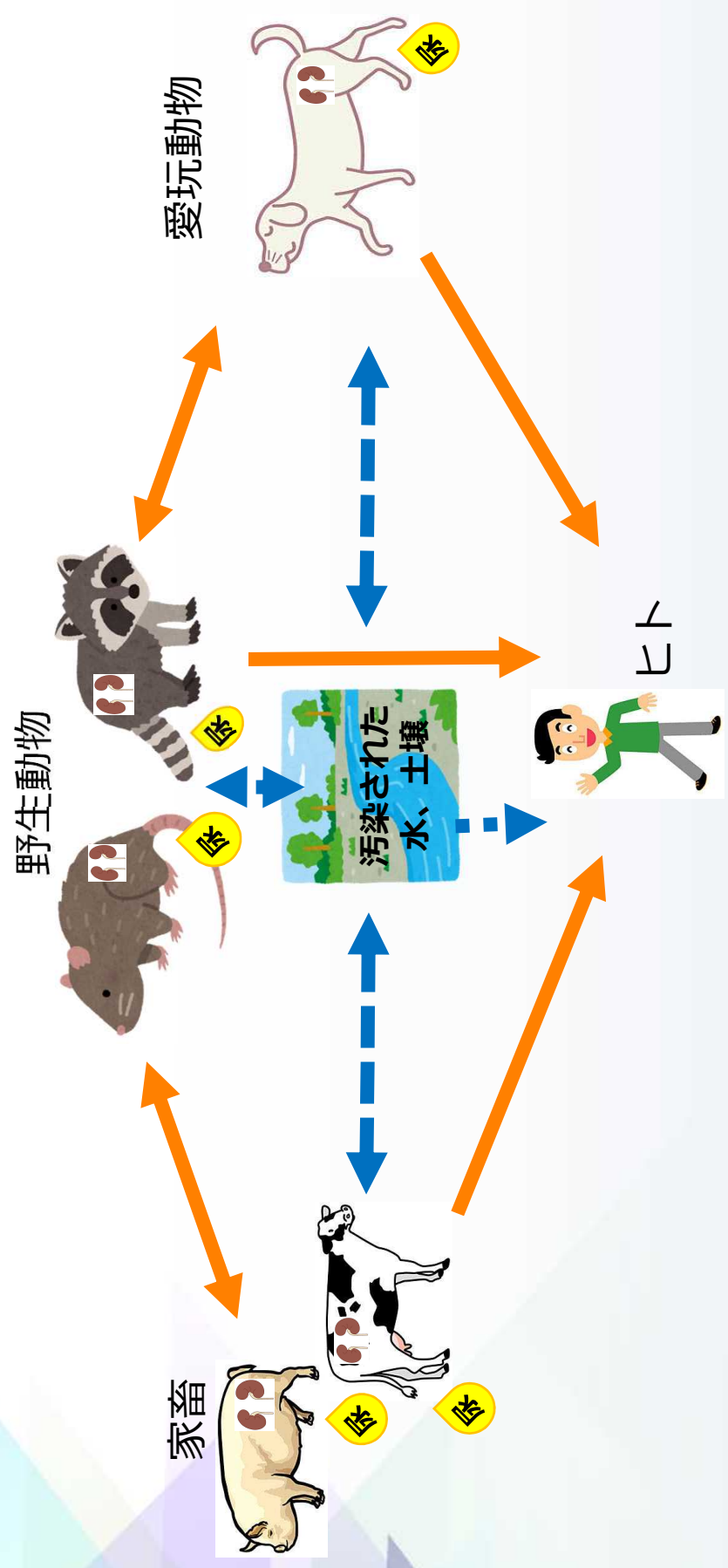
届出義務；牛、水牛、鹿、豚、いのしし及び犬

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症予防法）

レプトスピラ症；4類感染症

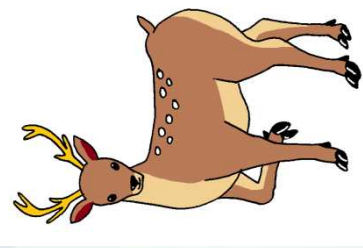


レプトスピラ症は、病原性レプトスピラ (*Leptospira interrogans* 等) によって引き起こされる人獣共通感染症である。



背景及び目的

- ◆動物由来感染症対策の充実・強化
 - ・平成16年 「徳島県動物由来感染症対策検討会」設置
 - ・平成23年度～ 動物由来感染症対策事業の一環として、
行政、猟友会、解体処理業者、医療機関や大学などと
連携をとり、野生動物の病原体保有状況調査を行っている



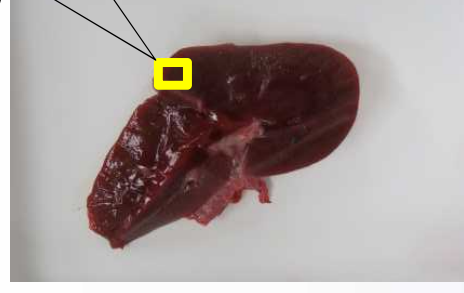
県内で捕獲されたシカ、イノシシについて
レプトスピラ症の感染実態を把握するため調査
を行った。



材料及び方法

平成29年度～令和3年度（12月末）

- ・シカ 128頭
- ・イノシシ 113頭



皮質5mm角を細切し
25mg採量

■ 分子遺伝学的解析

① QIAamp® DNA Mini Kit (QIAGEN GmbH, Hilden, Germany) を用いて DNA を

精製

② Nested PCR により *Leptospira flaB* 遺伝子検出

• 1st L-*flaB* F1 (5'-CTCACCGTTCTCTAAAGTTCAAC-3')

L-*flaB* R1 (5'-TGAATTCGGTTTCATATTTGCC-3')

94°C 1min

94°C 10sec

50°C 30sec

72°C 1min

72°C 5min

25cycle

• 2nd L-*flaB* F2 (5'-TGTGGACAAGACGATGAAAGC-3')

L-*flaB* R2 (5'-AACATTGCCGTACCACCTCTG-3')

94°C 1min

94°C 10sec

55°C 30sec

72°C 1min

72°C 5min

30cycle

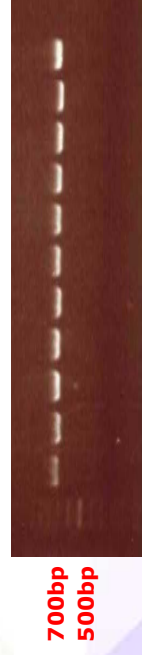
③ ダイレクトシーケンス

■ MAT（顕微鏡下凝集試験）による抗体の検出

- ①PCR陽性検体の血清を用いて、血清型Pomona、Canicola、Icterohaemorrhagiae、Grippotyphosa、Hardjo、Autumnalis、Australis、Hebdomadis、Copenhageniの9株を供試抗原として、菌数が 1×10^8 個/mLになるようにリン酸緩衝液（PBS）で調製した。
- ②96穴プレートのマイクロプレート上で被検血清はPBSで12.5倍希釈後、6,400倍まで段階希釈した。
- ③希釈血清と同量の供試抗原を各ウェルに分注し、最終希釈率を12,800倍までとした。ミキサーでよく混和後、30°C3時間反応後、暗視野顕微鏡下で凝集像を確認。
- ④対照培養液と比較し50%以上の凝集を示した場合を凝集陽性とした。凝集を示した最終希釈倍数を抗体価とし、凝集価100倍以上を示したものを抗体陽性とした。

結果

- *flaB* 遺伝子を標的としたPCR



シカ

1/128検体
(陽性率**0.8%**)

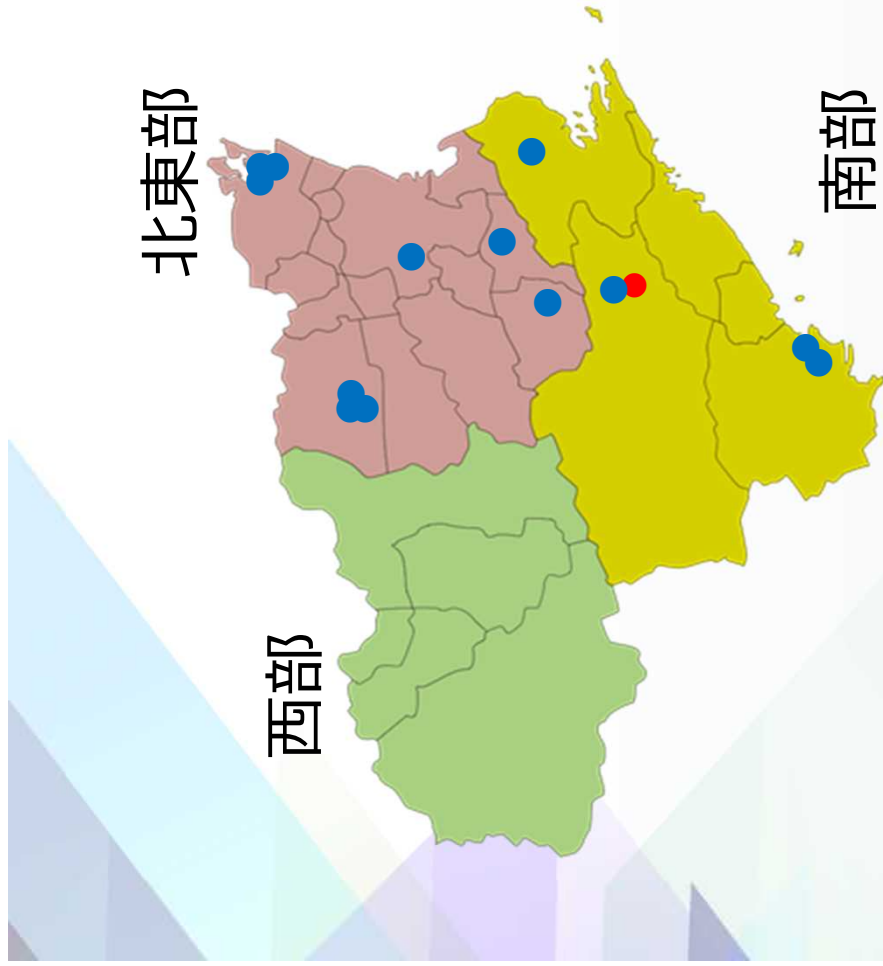
イノシシ

13/113検体
(陽性率**11.5%**)



すべて *Leptospira interrogans* であると推定された

病原性レプトスピラ



- イノシシ陽性
- シカラ陽性

	シカ		イノシシ	
	検査頭数	遺伝子陽性数 (%)	検査頭数	遺伝子陽性数 (%)
西部	55	0(0)	14	0(0)
北東部	35	0(0)	73	9(12.3)
南部	38	1(3)	26	4(19)
計	128	1(0.9)	113	13(11.5)

● MATによるレプトスピラ抗体検査

※遺伝子陽性検体ののみ
(血清検体のあるもの)

レプトスピラ抗原

個体No.	at	as	ca	g	he	cp	ict	po	ha
シカ ①	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25
イノシシ ①	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25
②	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25
③	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25
④	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25
⑤	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25
⑥	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25
⑦	<25	<25	<25	<25	<25	<25	400	<25	<25
⑧	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25	<25

at: Autumnalis

g: Grippityphosa

ict: Icterohaemorrhagiae

as: Australis

he: Hebdomadis

po: Pomona

ca: Canicola

cp: Copenhageni

ha: Hardjo

まとめ

- ～遺伝子陽性検体について～
- ◆地域別ではシカが県南部、イノシシが県北東部及び県南部で確認された。
- ◆同じ地域で捕獲時期の異なる複数の陽性個体が確認された。
- ◆**イノシシ1検体で血清型Icterohaemorrhagiae**に対して**400倍**の高い凝集価を示した。

〔 ※*Leptospira interrogans* serovar Icterohaemorrhagiae

主に齧歯類から伝播し、日本では人の**ワイル病（重症型、黄疸型レプトスピラ症）**の原因の一つとされており、治療の遅れにより重篤になりやすい。〕

本県においても、野生動物がレプトスピラ症の重要な保菌動物であることが示唆され、人への感染源になる可能性がある。



～レプトスピラ症の感染経路～



① 保菌動物との接触



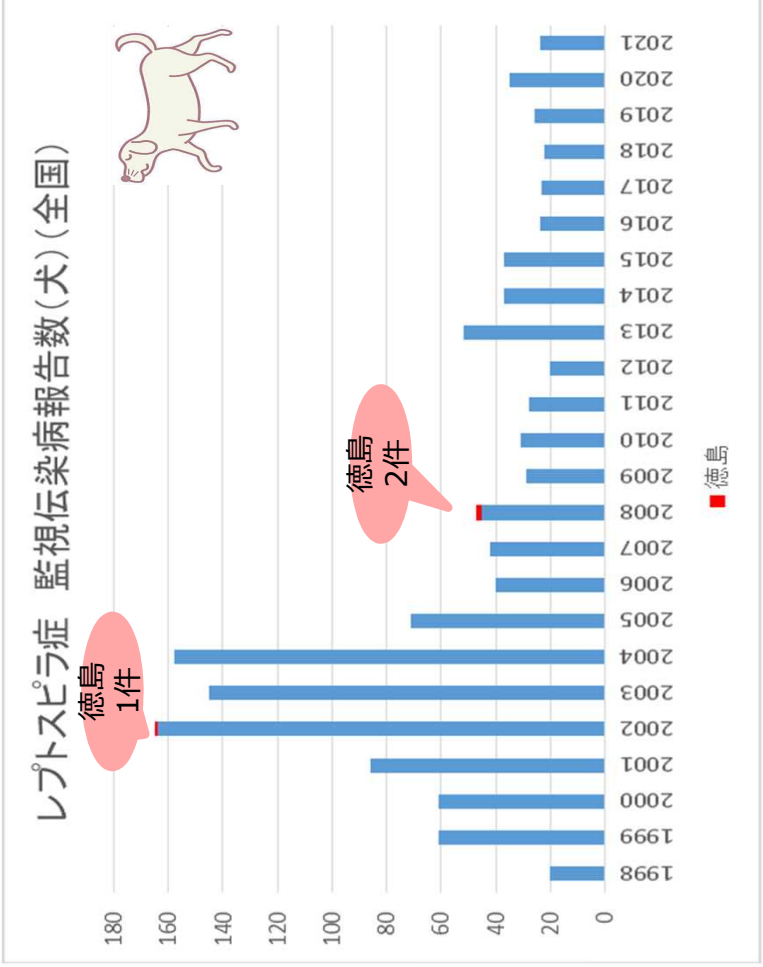
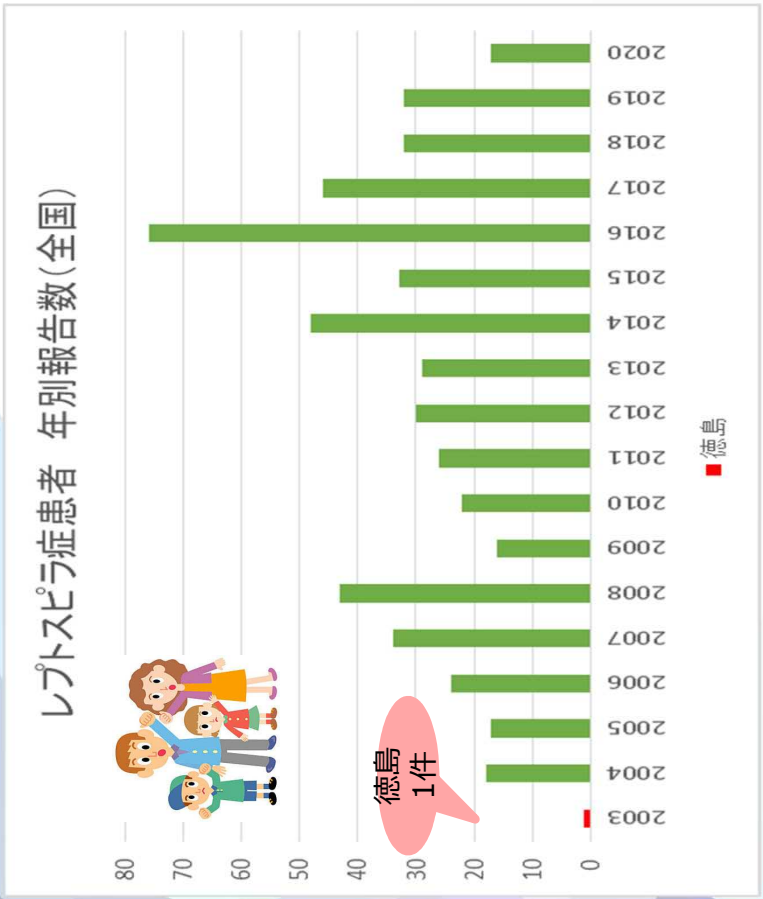
② 農作業や狩猟、河川でのレジャー等の
野外活動時



③ 台風に伴う水害等

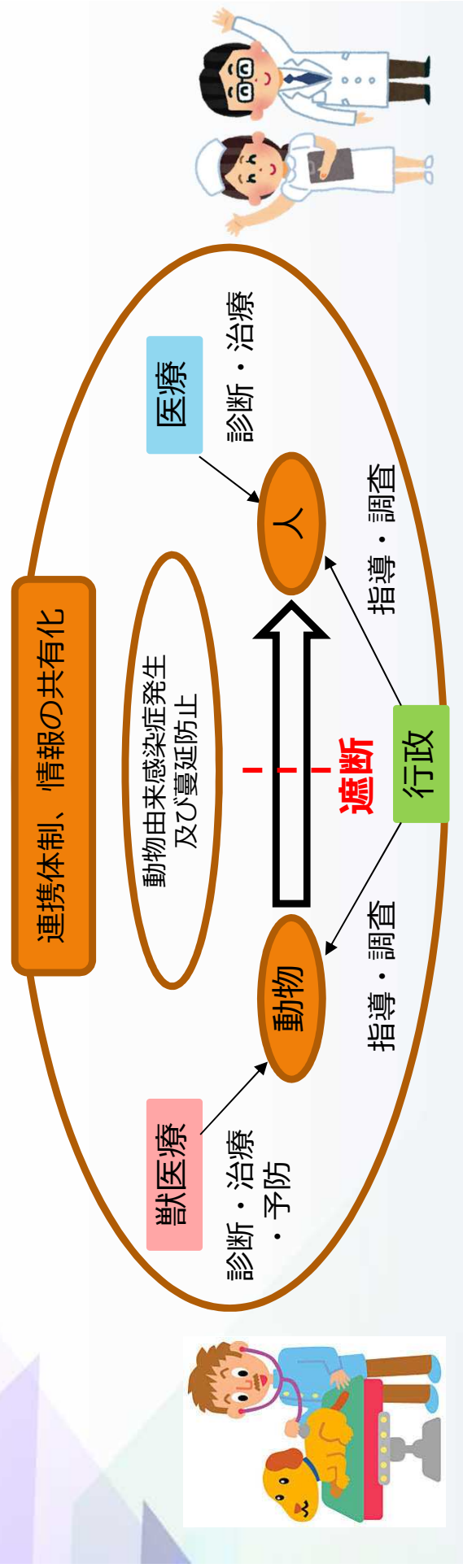
豪雨災害に関連するレプトスピラ患者報告

2000年	鳥取西部地震	汚染された井戸水の飲水
2004年	台風16号	愛媛
2005年	台風14号	宮崎
2011年	台風12号	三重
	台風12号	高知
2013年	台風18号	静岡
2018年	西日本豪雨	兵庫
		大雨後の農地で作業
		大雨後電柱建替え作業従事者 集団発生
		大雨後の濁った河川でトライアストン
		豪雨災害に対する消防団活動（河川氾濫防 止活動）に参加
2019年	台風19号	郡山市
		大雨で自宅が浸水、首まで汚染水に暴露



- 感染予防について周知啓発が必要
- 地域の発生状況や流行している血清型の情報を蓄積することが重要

今後も県内における保有状況調査を継続するとともに、得られた情報を医療、獣医療、行政の連携のもと県民に提供し、動物由来感染症対策を推進したい。



～今後の予定～

- 令和3年度PCR検査陽性検体（シカ・イノシシ）
 - MAT検査により血清型を特定、腎臓の病理組織検査
- 動物愛護管理センターに収容されていた犬猫の血清検体についても検査予定。

イヌネコにおけるリケッチア感染症 の抗体調査について(速報)

動物愛護管理センター

はじめに

- 人獣共通感染症のうち、ダニを介してヒトに感染する疾病について、馬原医学アカリ研究所に協力いただき、調査を行った。
 - 今回は、動物愛護管理センターに收容されたイヌネコである。ネコは負傷猫として收容されたものも多く、イヌは捕獲收容されたものが多かった。
-

材料

- 血清 23検体(ネコ13 イヌ10)
 - 場所 徳島市、阿波市各4、鳴門市3、
阿南市、小松島市各2、他
 - 採材期間 2020/4~2020/11
 - 雌雄別 ネコ13(オス3、メス6、不明4)
イヌ10(オス7、メス2、不明1)
 - 推定月齢 約3ヶ月齢~約5歳
 - その他 ネコ負傷7、所有権放棄1、遺棄疑い5
イヌ捕獲9、所有権放棄1
-

検査方法

- IP法(間接免疫ペルオキシダーゼ反応)
つつが虫病(Gilliam等6血清型)、日本紅斑熱、
SFTS、発疹熱
 - 菌凝集反応迅速スライド法
野兔病
-

結果(1)ネコ

	陽性検体数	最大値	陽性検体数	最大値	
	Gilliam	2	80	<i>F.tularensis</i>	0
	Karp	5	2560	<i>F.novicida</i>	0
	Kato	4	20480	<i>F.philomiragia</i>	0
つつが虫病	Irie	0	0		
	Hirano	2	40		
	Shimokoshi	0	0		
日本紅斑熱	4	160			
発疹熱	3	160			
SFTS	2	160			

菌凝集反応迅速スライド法
(陽性最小値20倍)

IP法(陽性最小値40倍)

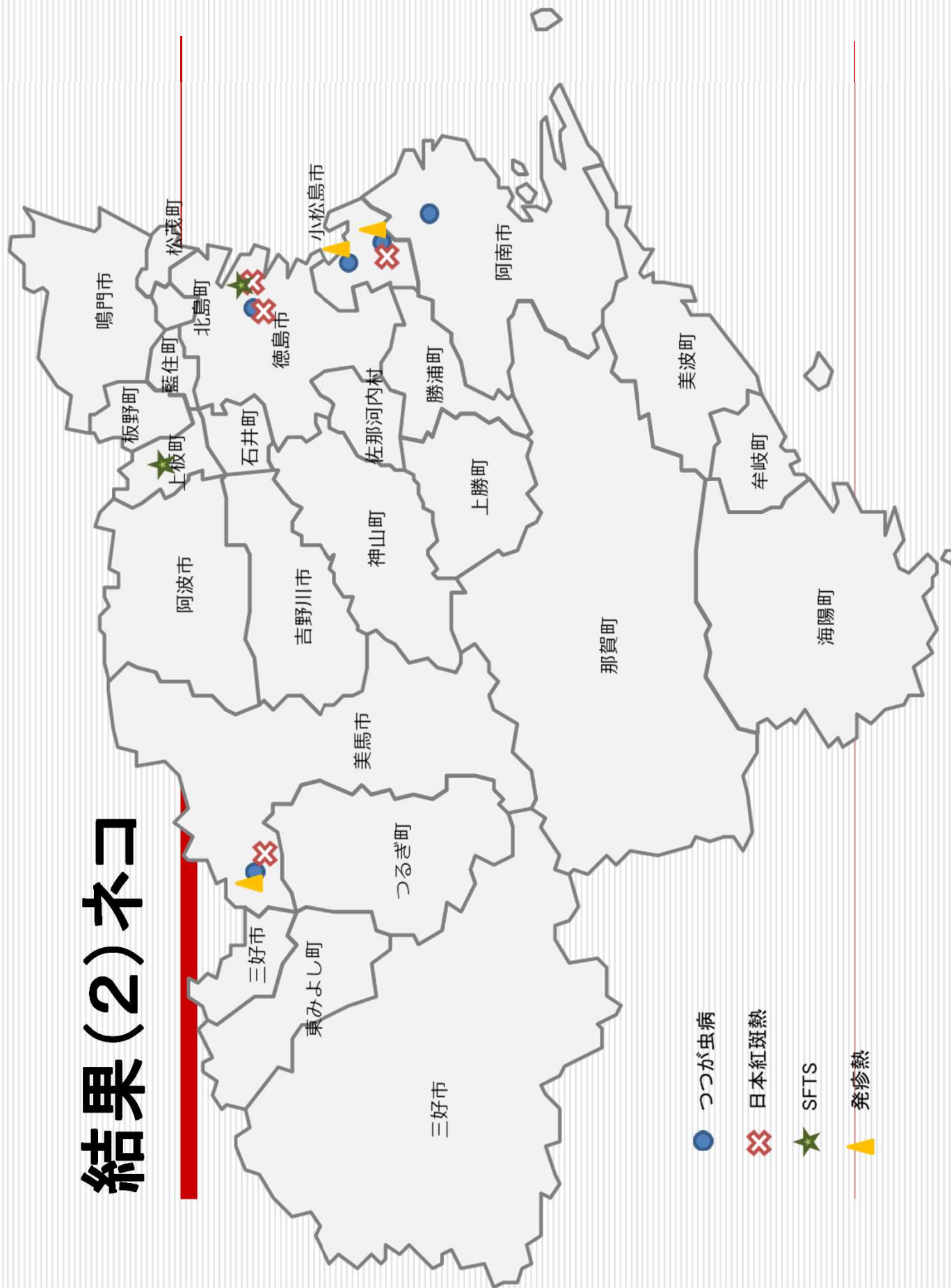
結果(1)イヌ

	陽性検体数	最大値	陽性検体数	最大値	
	Gilliam	4	80	<i>F.tularensis</i>	0
	Karp	5	640	<i>F.novicida</i>	0
	Kato	2	160	<i>F.philomiragia</i>	0
つつが虫病	Irie	1	40		
	Hirano	5	320		
	Shimokoshi	2	160		
日本紅斑熱		4	320		
発疹熱		0	0		
SFTS		7	320		

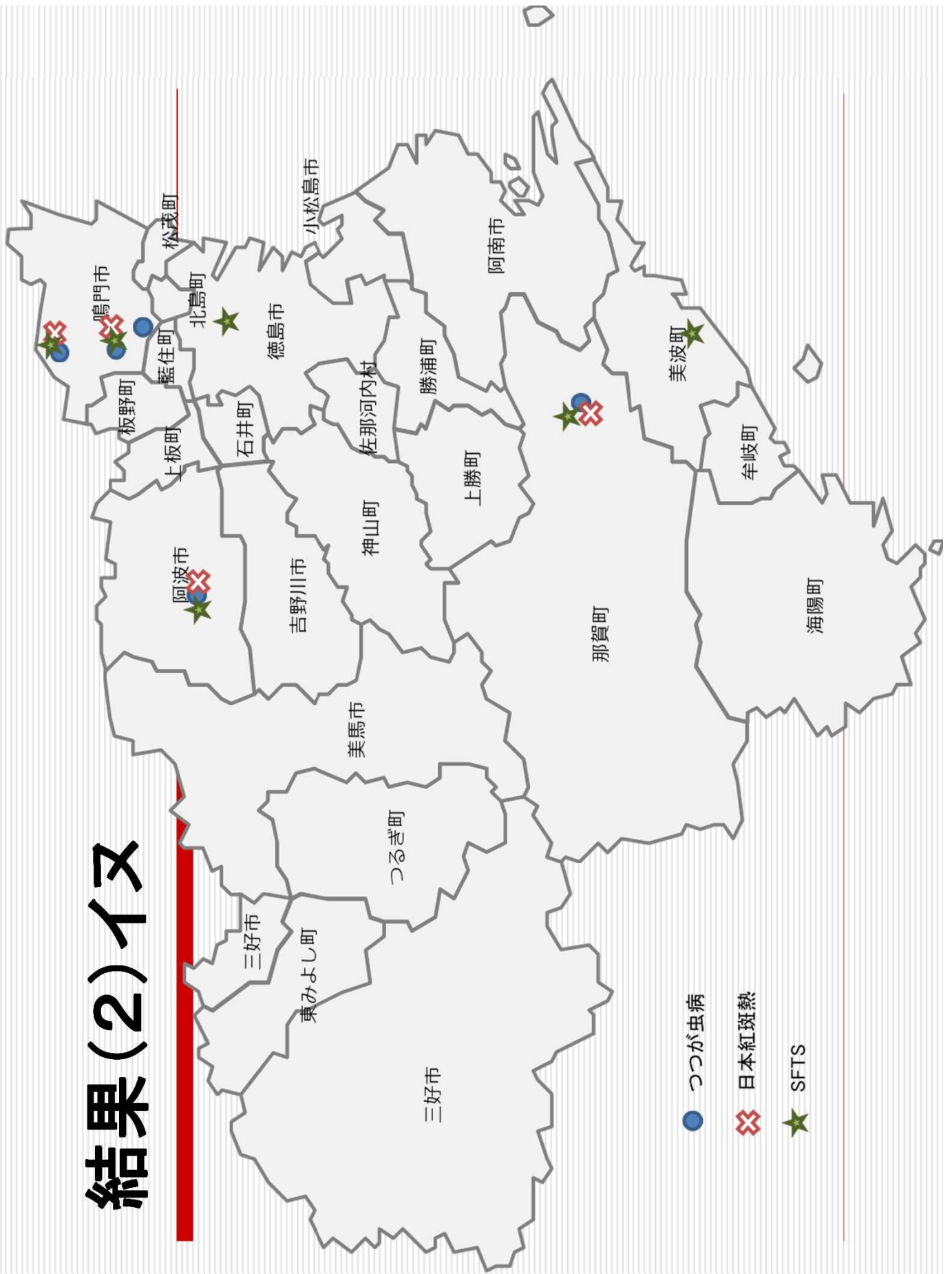
菌凝集反応迅速スライド法
(陽性最小値20倍)

IP法(陽性最小値40倍)

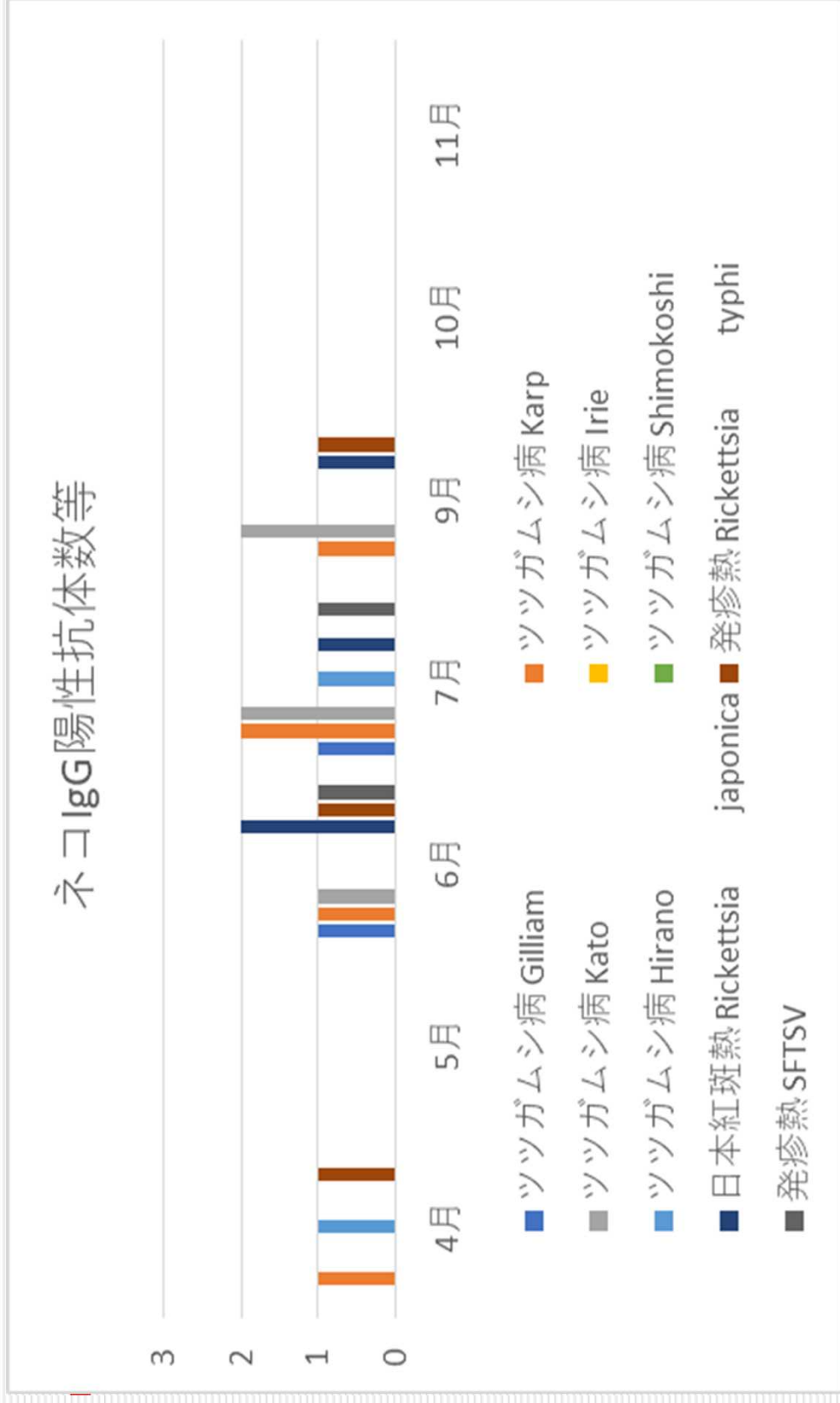
結果(2)ネコ



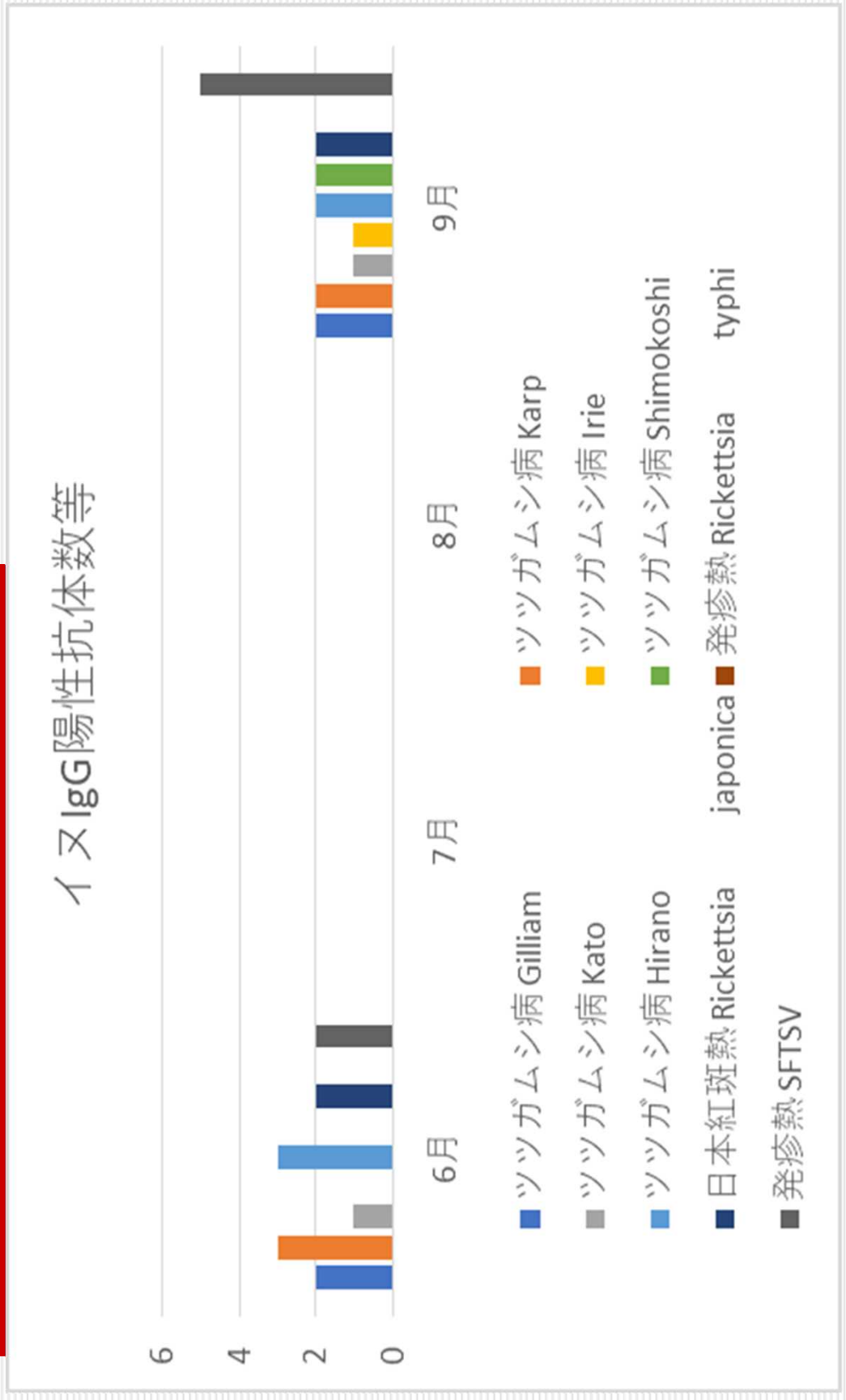
結果(2)イヌ



結果(3)ネコ

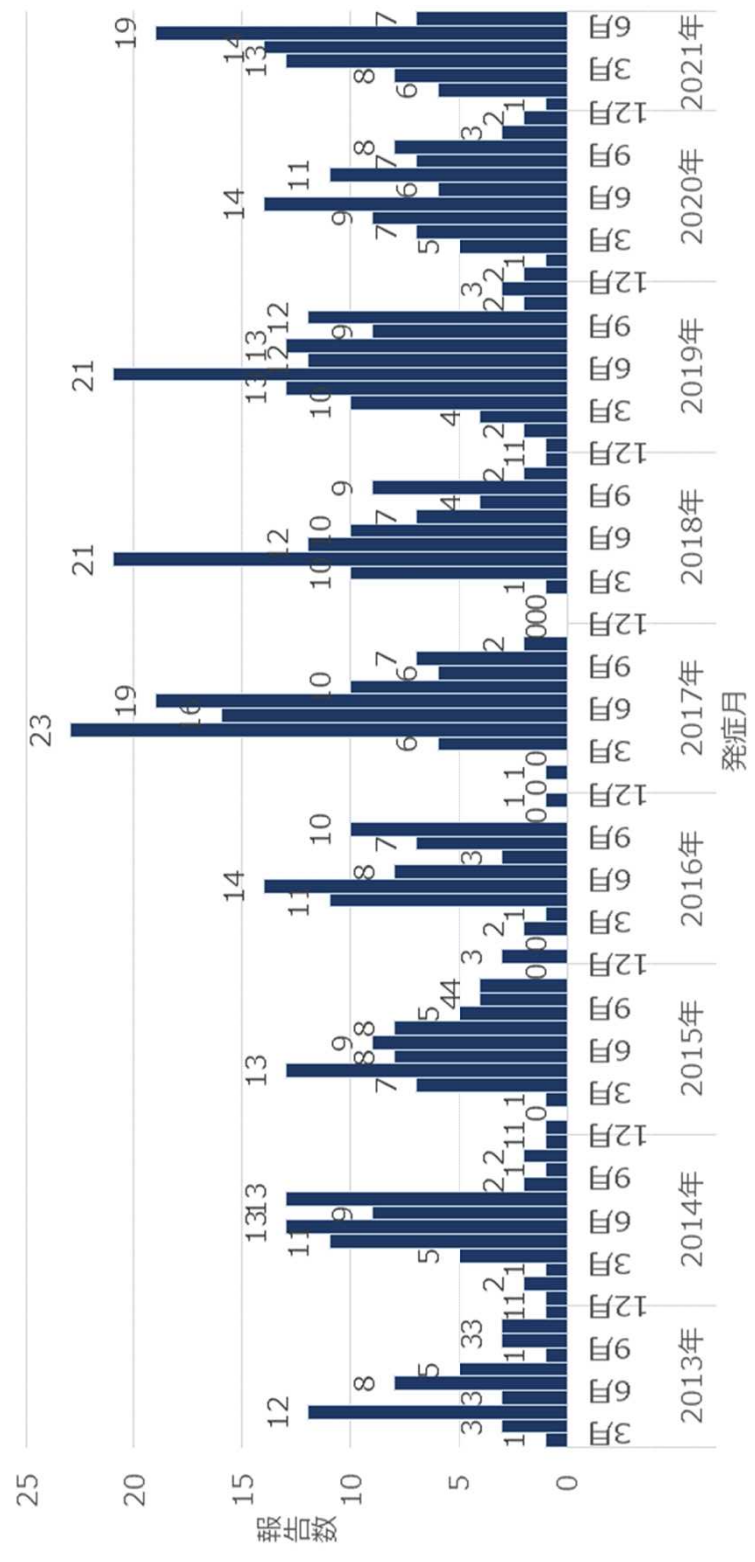


結果(3)イヌ



参考：ヒトの感染症動向

図1. 2013年3月4日以降に届出られたSFTS症例の発症時期 (n=633, 2021年7月28日現在)
 ※届出対象となる日時以前の発症例8例を除く
 (SFTSは2013年3月4日に感染症法で全数把握対象疾患である4類感染症に指定された)



結果と考察(1)

○抗体陽性検体が多いつつが虫病(Karp)

- ・以前の調査(ネコ100検体)でも最多
- ・最高値は、ネコの方が高値 (ネコ2560、イヌ640)
- ・他のつつが虫病でも、ネコの方が高値
(ネコ20480(Kato)、イヌ640)

- つつが虫病に対する感受性はネコの方が強い
(最高数値のネコはFIV陽性であった)

結果と考察(2)

○SF7Sに対する抗体のみを示すイヌの存在

- ・SF7S抗体のみ保有のイヌは数値が低め(40~80)
- ・他の抗体保有のイヌは数値が高め(160~320)
- ・ネコよりイヌの方が数値が高め
(ネコ40~160、イヌ40~640)

- 高確率でイヌはSF7Sに暴露され、生きながらえていると考えられる

結果と考察(3)

- 年齢を重ねるほど、数値が高い傾向
 - FIV陽性など、免疫の低下と考えられる数値
上昇も見られた(特にネコ)
 - 今回の検体は、状態の悪いイヌネコが多い
(特にネコ)
 - 検体数が少ないため、今後検体数の増加と共
にわかっていくともあると考える
-

今後の取組

- 1 県民への啓発
 - ・飼い猫の屋内飼育の徹底
 - ・飼い犬へのダニ駆虫の積極的投与
 - ・マダニの付着予防のための啓発
- 2 収容業務に携わる職員への感染予防研修
 - ・保健所、動物愛護管理センター
- 3 県獣医師会への情報提供及び情報共有

1 概要

- ・令和3年度 3件（10月1件、11月2件）
- ・徳島保健所感染症疾病対策担当への問い合わせ 2件
- 安全衛生課からの情報共有 1件
- ・媒介が疑われるペット動物種： 猫 3件
- ・ペットから人への感染 0件

2 東部保健福祉局管内保健所の対応

(1) 患者情報の聴取（疾病の調査票あり）

(2) ペット情報（SFTS ペット動物調査票）

(3) 関係機関の情報共有（管轄保健所への一報後）

→保健所担当間の情報共有

→感染症疾病担当から感染症対策課への情報共有

→動物由来感染症担当から動物愛護管理センター及び安全衛生課に情報共有

3 事例紹介

(1) 医療機関医師から保健所感染症疾病対策への情報提供事例

- ・救急搬送患者が近隣のペット猫に噛まれたようなので SFTS の検査をしている。

(2) 管内動物病院獣医師から保健所感染症疾病対策への相談事例

- ・受診したペットの猫が SFTS 陽性だったので今後の対応について聞きたい。

(3) 安全衛生課からの情報提供事例

- ・SFTS 疑いの猫を診察している動物病院獣医師から、安全衛生課に検査機関の照会があった。

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ペット動物調査票

調査年月日:

調査者氏名:

獣医師からの報告等によりペット動物のSFTS感染の可能性が疑われた場合、感染拡大防止の観点から、ペット所有者(飼い主)に確認をしたいので予め獣医師に了承を得て、聞き取りを行うこと。

1. 基本情報

主治医に関する情報	主治医氏名	
	動物診療施設名	
	住所	
	連絡先	
ペット所有者に関する情報	所有者氏名	
	住所	
	連絡先	
ペット動物に関する情報	ペット動物氏名	
	住所	<input type="checkbox"/> 所有者と同じ <input type="checkbox"/> その他()
	年齢	歳 ヶ月齢
	体重・性別	体重: kg 性別: ♂・♀
情報提供の可否 ※主治医に確認	ペット動物に関する 情報提供の可否	<input type="checkbox"/> 了承 <input type="checkbox"/> 拒否
	所有者に関する 情報提供の可否	<input type="checkbox"/> 了承 <input type="checkbox"/> 拒否

2. ペット動物の詳細情報

ペット動物種	<input type="checkbox"/> 犬(種類:) <input type="checkbox"/> ねこ(種類:) <input type="checkbox"/> その他()	
ペットの健康状態	<input type="checkbox"/> 健康 <input type="checkbox"/> 病気(いつから:)	
動物病院の受診	<input type="checkbox"/> 有(診療施設名:) <input type="checkbox"/> 無	
飼育環境	<input type="checkbox"/> 室内 <input type="checkbox"/> 屋外 <input type="checkbox"/> 室内及び屋外	
ダニの寄生	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 過去有(いつ頃:)	
ダニ予防薬投与歴	最近の投与年月日(年 月 日)	
	製品名()	
ワクチン接種歴	最近の接種年月日(年 月 日)	
	製品名(): 種混合)	
その他既往歴	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()	
(SFTS) 疑い	発症日	年 月 日
	症状	<input type="checkbox"/> 発熱 <input type="checkbox"/> WBC減 <input type="checkbox"/> PLT減 <input type="checkbox"/> 食欲・元気低下 <input type="checkbox"/> 消化器症状(<input type="checkbox"/> 下痢 <input type="checkbox"/> 嘔吐) <input type="checkbox"/> その他()

3. 同居ペットの状況

同居ペットの有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
同居ペット動物種	<input type="checkbox"/> 犬(種類: 頭数:) <input type="checkbox"/> ねこ(種類: 頭数:) <input type="checkbox"/> その他()
同居ペットの健康状態	<input type="checkbox"/> 健康 <input type="checkbox"/> 病気(いつから:)

※同居ペットについても有症状の場合は、同様の内容について聞き取りを行う。